DOKKYO SAITAMA HIGH SCHOOL
獨協埼玉高等学校

同窓会会報

No. 3
2001.8.20

発行：獨協埼玉高等学校同窓会　発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316
☎048-977-5441　FAX048-977-2031
e-mail : info3@dokkyo-saitama.ed.jp

いよいよ獨協埼玉中学校開校

4月6日～8日 オリエンテーション合宿

今まで夢で描いてきた獨協埼玉中学校がいよいよスタートしました。何もかもが初めてで私たちスタッフ、もちろん生徒たちも不安やとまどいを隠せません。

学校生活に1日でも早く慣れ、楽しい学校生活を送ってもらうために様々な講習会を行いました。そして何よりも大切にしたかったのは担任と生徒が信頼関係を築き、生徒同士が仲良くなることです。2泊3日の苦労の甲斐があり、始業式には教室中に大きな笑い声が響き渡っていました。

5月12日（土）

初夏を思わせる五月晴れの下225名の中学生達は初めての「田植え」を体験しました。これは総合学習の一環であり、事前に農家の方のご指導をいただき、理科では生態系や動植物について、社会では稲作の歴史や輸出入の問題にまで掘り下げていく予定です。当日まで気持ち悪いと腰の引けていた女子達もいざ田んぼに入ってみると黄色い歓声をあげ、熱心にそして大切に苗を1本ずつ植えていました。

感想文には「来年も植えたい」「もっと田んぼに入っていたかった」と興奮さめやらぬ様子で、6月現在、苗は約2倍の60センチ、茎もずいぶん太くなりました。生徒達の夢も大きく育っていくことでしょう。（中学一年学年主任　堀口千秋）

「中学生の制服」

男子の制服は、高校同様ツメ襟学生服、袖には伝統のジャバラが入っています。高校との違いは、襟元の校章が金色になっていることです。

女子の制服は、獨協マークの入った丸襟のブラウスに、丸首・襟なしで、やや強い絞りの入った紺のブレザー、スコットランドの由緒正しいタータンキルトを使用したスカートと、清楚なイメージの制服になっています。

制服姿を比べると、男子よりも女子の方が大人びた雰囲気を持っているように感じられます。登下校時など、この制服姿をお見かけの際には、温かく見守っていただければと思います。

3【Sun】4【Sea】5【Go】

同窓会会長　玉山栄一

平成10年秋に正式に発足した同窓会も、多くの皆様のご理解とご協力により、ようやく3年目という節目の年を迎えることができた。この3年間は、「三つ子の魂百まで」という言葉の通りに、とにかく土台作りに力を注いだ3年であった。同窓会としての役割は何なのか。同窓生、在校生に対する情報発信、同窓生同士や懐かしい先生方との親交を深めることだけではなく、地域社会との共生など、21世紀の同窓会としてのあるべき姿を模索しながら、幹事同士の侃々諤々の議論の中で、「獨協埼玉高校同窓会」としての方向性がまだ朧気ではあるが、見えてきたような気がする。

その意味で、これまでの土台がやがて太陽のように輝き出すに違いない。そんな3年であった。この輝きを増すためには、同窓生の協力が不可欠となる。それぞれのフィールドで活躍されている同窓生諸氏とのネットワークを密にし、同窓生を通じて情報発信をしていくことを考えている。そうすることで、4年目は穏やかな海だけではなく、荒れ狂う海に挑んで乗り切り、5年目には澄んだ海と輝く太陽を持った同窓会として、皆様にお見せできるよう尽力したいと考えている。ご期待下さい。

新しい歴史が始まります

校長　石井征次

いつの日か中学校を作りたいとの思いはずっと心の中にありました。

平成十三年四月、ようやく念願が叶っての中学校開校。しかも首都圏私立中学校入試史上最大ともいわれる受験生を集めての望外の好スタートでした。

とりあえず、滑り出しは上々として、問題はこれからです。具体的にどんな教育が行われるのか、教師たちはどれほどの情熱を持って教育に取り組んでいるのか、そうしたことがすべて問われてきます。生徒たちや保護者の満足度がどの程度であるかによって、すぐに次年度の生徒募集に響いてきます。今はそういう時代なのです。

そんなときに、獨協埼玉中学校・高等学校の校長を引き受けることになりました。卒業生の諸兄・諸姉に恥じることのない教育を実践しなければなりません。いささか任が重いとは自覚しておりますが、思えば、二十三年前、獨協埼玉高等学校の立ち上げの時から関わってきた古狸の一人としては、長い教師生活の最後の舞台を与えられたものと覚悟して、我らが獨協埼玉中学校・高等学校の発展のために全力を尽くそうと思っております。

卒業生の皆さん、どうぞ母校のため応援して下さい。

担任になって

7期生　酒井直樹

縁あって、今年から初めての中学校を教えることになり、しかも担任ということで毎日孤軍奮闘しています。今は生活の中心です。

中学校では入学式の次の日から、これからの学習していく教科のガイダンスと生徒同士の親睦を深めると言った意味で、日光へ2泊3日のオリエンテーション合宿に行きました。

公立の中学とは異なり、クラスのほとんどが知らない顔ばかりで、初日は緊張した姿が目に映りましたが、最終日にもなると本来の自分たちの姿に戻りつつありました。合宿のおかげで、学校生活で大切な友達づくりの第一歩を踏み出すことができ、参加した教員、生徒の間でも大変好評でした。

また教科の壁を越えた総合学習として、1年生では「田植え」を体験します。もう5月に田植えは終わりましたが、とても楽しそうでした。中でも、田んぼの脳に流れている用水路にいるザリガニやドジョウに興味津々で、夢中になって取っていました。あまりこのような体験をしたことがなかったのでしょう。

まだ入学してたった2、3ヶ月しか経っていない生徒達。ザリガニの話ではないですが、少しずつ小学生の殻を割って、中学生の姿に脱皮し始めています。この脱皮を後、何回繰り返して高校生、そして大人になっていくのでしょうか。また、知らず知らずのうちに、担任（自分）も成長しているように感じます。獨協埼玉の一卒業生として、魅力的な、そして、温かい心を持った大人に育てていきたいと思っています。最後に、いつもいろいろなアドバイスをしてくださる先生方、本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

第3回同窓会総会開催

平成十二年十月一日に、第三回となる同窓会総会が開催されました。今回は学校会場での実施となりました。総会を視聴覚室、懇親会を食堂で行いました。総会では、同窓生の協力もあり、議事が滞りなく進行しました。懇親会では、新宮先生などもお見えになり、先生方との親睦もはかられた和やかな会になりました。次年度の中学の開校の件などが、四宮校長などからも話され、建設中の中学校の新しい校舎も外側からですが、確認することが出来ました。

同窓会として最初の母校への貢献として、体育館の緞帳の修繕費を後援会などと協力して供出することを、総会で承認されました。学校に足を運ばれた際には、是非とも体育館まで足を伸ばしてみてください。

卒業生インタビュー part 3

近藤　芳史さん（3期生）

高校卒業後、日本・アメリカの大学で経済学を学び、帰国後現在の会社に勤務。専務取締役として経営に携わる一方、余暇にはレコード・CD制作など音楽活動を行い、多忙な日々を過ごされています。

水谷　今どんなお仕事をされていますか。

近藤　日本オートマティックコントロール(株)という会社で電磁波の測定器やケーブル・スイッチなど電気・電子部品の輸入を行っています。また別会社ではエアーフィルターの製造・販売を行っており、ビルの空調関係や病院・クリーンルーム等で使用されています。

以前は営業もしていましたが、今は兄と二人で経営の方に関わっていて、どちらかというと海外とのやりとりに時間を費やしています。あとはトラブルがあったとき対応が一番忙しくなるので、できれば自分が暇なぐらいが会社としては一番順調ですね。

水谷　卒業後はすぐにこの会社に就職しようと考えていましたか。

近藤　いえ、当時は将来について漠然としか物事を考えていませんでした。

自分にとっての転機は十八歳のときですね。その頃父が亡くなって大変なことも多く、自分なりにいろいろ考えたのですが、日本の大学卒業後に結局アメリカにいくことを決めました。ペンシルヴァニア州にあるALLEGHENY COLLEGEで経済学部卒業後、日本に帰って今の会社に勤めることになりました。

水谷　最近は余暇で音楽活動も行われていると聞いていますが。

近藤　音楽はもともと好きだったのですがアメリカにいた頃、NYなどで音楽業界の人脈ができた関係でハウスミュージックのレコード・CDをアメリカで何枚か出しています。日本ではアニメのサントラ用に同じくハウス系の曲を制作したことがあります。「神八剣伝」というアニメで全国放映されていました。

水谷　高校時代の思い出を教えて下さい。

近藤　都内の家から学校まで片道2時間ほどかかるのでとにかく遠かったことを覚えています。他にもいろいろありましたが友達のおかげでそれなりに楽しい高校生活でしたね。

水谷　最後に何かメッセージをお願いします。

近藤　自分がアメリカに行って学んだことは、何事にも自分をうまく売り込んでいかないと駄目だということです。日本人にとっては一番不得手な部分ですが、自分で目標を設定し行動を起こさない限り何も変えることはできないと思うのです。自分自身を世界に強くアピールし、みなさんも各分野で頑張って下さい。

手嶋　美由紀さん（14期生）
看護士
（現獨協医科大学越谷病院呼吸器内科勤務）

高校の卒業式では、卒業生を代表して答辞を読み、そこで看護への道を目指すことになった経緯を話し、当時の校長が思わず涙したほどでした。獨協埼玉高校を卒業後、獨協医科大学付属看護専門学校を経て、平成十一年より越谷病院に勤務。

小平　看護士としての仕事はどうですか。

手嶋　もともと人と接するのが好きで、この仕事を選んだので大変なことも多いですが、続いています。高校のクラスメイトの名前はあやしいですが、患者さんの名前はフルネームで覚えられますしね。

小平　忙しいですか。

手嶋　忙しいです。配属にもよるのですが、私の配属の科は、離職率が高く、この二年間では六～八名程度ずつやめているのです。だから現在二十二名の勤務なのですが、その半数が一年目二年目なのです。だから私は新米扱いではないのです。科によっては、まだ上が付いて指導されているのに、私は指導する立場になっています。といっても、まだ自分のことで精一杯ですが…。

小平　呼吸器内科についての印象は。

手嶋　勉強していたときには興味なかったし、配属されても肺なんて分からないよと思っていたのですが、始めてみて分かってくるとおもしろくなるものですね。今は専門の機関などで勉強したいと思っているくらいです。

小平　専門の機関って

手嶋　呼吸器だけを扱っている施設や、特に肺ガンなどで、どのように死と向き合うかなどを患者と共に考えるような機関です。

小平　きっかけはあるのですか。

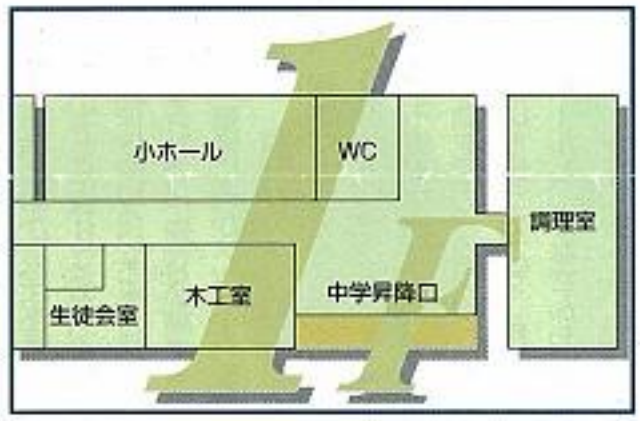
手嶋　父の病気がきっかけです。昨年の八月にガンで亡くなったのですが、そのときに看護士という仕事をしていたおかげで、父ももちろんですが母などをサポートすることができました。父の死から得たものでもう少し看護士をがんばってみようかなと思えるようになったのです。それで専門の施設で勉強をしながら、仕事をしてみたいと考えるようになったのです。

小平　将来的にはそんなところで。

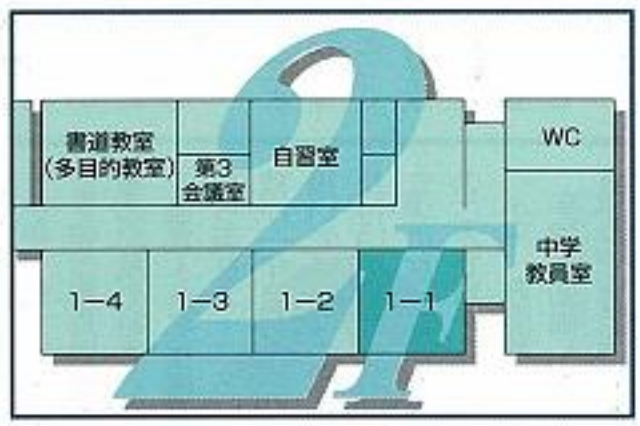
手嶋　ええ、正直に話しますと、獨協を離れてでも、そんな専門の機関で仕事をしてみたいという思いはあります。上の人に話すと、そんなところへ行かずに獨協でやればいいじゃないと言われそうなのですが、色々なものの優先順位が違うのです。大学病院だと全体の中の一部署でしかないという面があるのです。大きな大学病院の中の一部署ではなく、小さくてもいいから、そんな施設や機関で仕事をしてみたいなと思っています。まだ迷っているのですが、ガン看護か、肺の理学療法のどちらかを考えています。

小平　今日はありがとうございました。

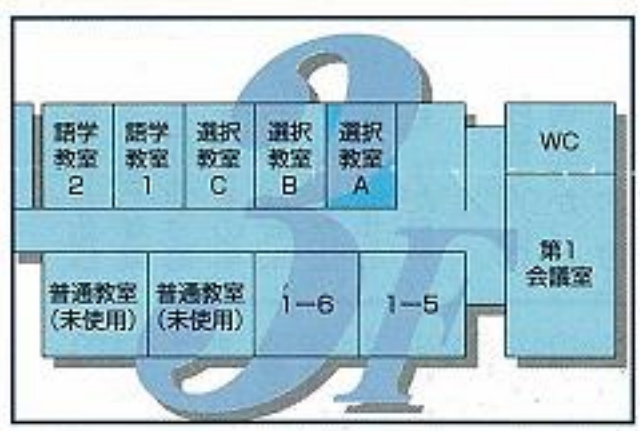
新設 獨協埼玉中学校 校内紹介



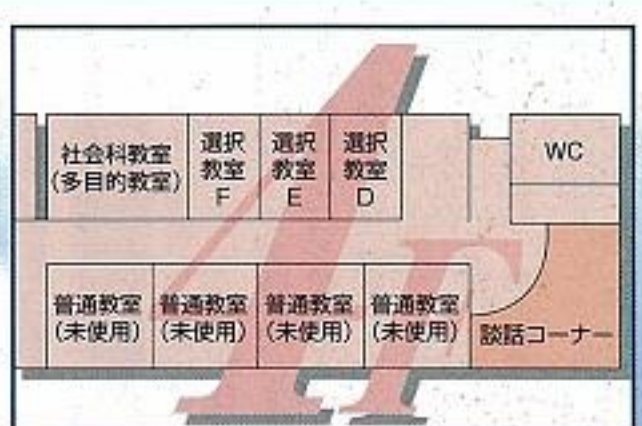
一階は、生徒会室・新聞室・ホール等、生徒達の自主性を高める空間が多く設けられています。これらの施設を利用して、生徒達の好奇心や自主性が育まれるに違いありません。そうした一階の中で、特に注目されるのが、これから成長していこうとする生徒達が毎日利用する昇降口です。ガラスに囲まれた昇降口は、たくさんの光を校舎内に引き入れ、生徒達の学校生活を毎日明るく照らし、見守ってくれることでしょう。



獨協生ご用達のあのフタ付机、ゴム椅子は今でも健在です。私達の時代には夏は廊下側の涼しさを、冬になると窓際の暖房を求めて席決めバトルが繰りひろげられました。しかし、今や教室は冷暖房完備で学習環境は万全です。またドアには○型の窓がついており、勉強中の一生懸命な生徒の表情を覗くこともできますョ！



三階は、クラスとして利用される教室が並び生徒達の明るい笑い声が廊下に響き渡っています。その三階で特に注目されるのが、教室の向かい側に設けられたパソコン室にほかなりません。このパソコン室はクラス単位で利用するのに十分な台数を備え、教壇側にも生徒と向かい合う形でパソコンが設置されており黒板もあるので、授業に使用しやすくなっています。IT化が進む今日、このパソコン室をフル活用することが望まれます。



"とにかく明るく"というコンセプトで建てられた新校舎はいたるところでふんだんに自然光がとり入れられています。中でも一際目につくのが階段脇に設けられている談話コーナーです。机や椅子も用意され、クラスという枠を超え、また学年という横のつながりだけにとどまらず先輩・後輩という関係を深めたり、教員とのコミュニケーションを築くための大切な共存スペースとして生徒達に受け入れられているのではないでしょうか？

「部活動紹介」

なつかしきあの頃 第2回

バトントワリング部の軌跡

バトントワリング部は、1982年バトントワラー同好会として発足されました。

発足するにあたり、当然のことながら顧問の先生をお願いしなければなりませんでしたが、1期・2期と男子校であった我が校には、当時女性の専任教諭は4人しかいらっしゃいませんでした。そんな中、日本舞踊とジャズダンスを踊られる澤田みち子先生に顧問をお願いすることにしました。

同好会設立にあたっては当初「華美になるのではないか」との懸念の声もあったようですが、あくまでも競技を目指す、学校の品位を落とすような事は一切しない、という条件のもと設立が許可されました。

初の舞台は6月に行われた体育祭の入場行進でした。何といっても発足が認められてから1ヵ月程度での初舞台です。人数もあまりおらず、澤田先生をはじめ、事務室の鈴木（現・橋本）さんや伊藤（現・大熊）さんも一緒に黄色いTシャツにスコートというユニフォーム姿でバトンによる行進をして下さいました。それまで男子校だったところにいきなり登場したバトントワラーは、大層珍しかったようです。2・3年生の先輩方の反応は大きなものでした。

今や昇降口はバトン部の練習場所として定着してしまったようですが、発足当時、体育館は既に一杯だったため、とにかく皆にバトン部の存在を知ってもらおうと、誰もが通る場所ということで、当面の練習場所として選んだのが昇降口だったのです。その当面が今でも続いていることを知り、少々驚きました。

私達バトン部の活動は何もかもが手作りでした。いろいろな講習会に参加したり、本やビデオで研究したりして、練習を進めていきました。作品に関しても、テーマから選曲・振り付けは勿論、衣裳も自分達で縫いました。

その後、我がバトン部は着実に実力をつけていきました。4期生で関東大会出場、6期生でジャルカップ入賞を遂げ、8期生の松本夏子さんは初めて個人で世界大会への出場を果たしました。（左写真）その後は軒並み世界大会、日本大会（現在世界大会は開催されておらず、日本大会が競技会としての最高峰）、ジャルカップの常連になっているようです。歴代の成績を調べたところ、とても紹介しきれない程の人数に、うれしい悲鳴をあげてしまいました。

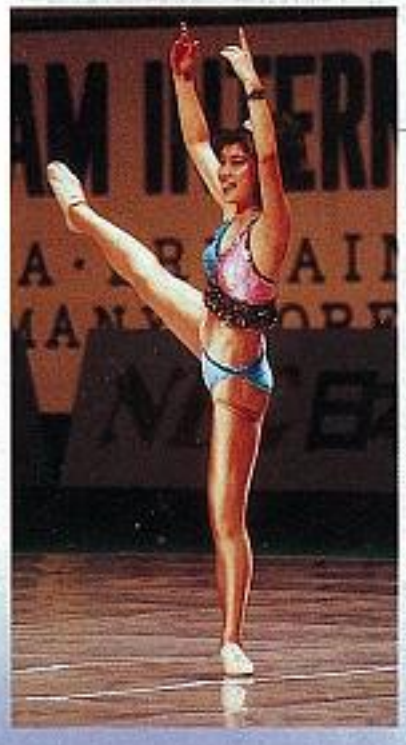
現在もバトン部（上写真）は各競技会に向けて、日々練習に励んでいるようです。先日、久し振りに練習に参加させてもらったところ、内容の充実ぶりに驚かされました。最近の作品も見せてもらいましたが、自分達をアピールしていく姿も板についていて風格さえ感じさせてくれました。それでもまだ上には上がいると聞き、我が部の成長もさることながら、他校のレベルも私達の頃とは比較にならないくらい上がっているのだと認識しました。

でも、私達の頃から変わっていないものもありました。部内の雰囲気です。獨協のカラーというのでしょうか、和気藹々としています。

日進月歩する競技会の舞台で結果を残していくことは、想像以上に困難なことであり、その結果を保っていくことは、またそれ以上に厳しいことだと思います。競技を目的とした以上、結果を出していくことは当然望まれることですが、それ以上に、部員1人1人が大切なものを見失うことなく成長していって欲しいと思います。

私達が蒔いた小さい種がこんなにも大きく成長したことを知り、歴代の顧問の先生のご尽力、諸先生方のご協力、そして過去の後輩達の努力に改めて感謝いたします。

（三期生　初代バトン部　石川 和美）



（第三回）教員座談会

今回は男女共学が始まった三～五期の先生方に当時の思い出を語っていただきました。

司会　今回のテーマは「男女共学」です。まずは女子生徒が入学したことで思い出されること、また学校の中で一番変わったと思えることはありますか？

河端　部活かな。それまでは男子のみだったから、上半身裸でも平気だったのが、急に女子の目を気にするようになってね。

太田　私は自白の獨協からここに来たから、教員として女子生徒を迎えること自体初めてでね。緊張もしたね。行事でも男子だけだとしらけてしまうところが、女子が加わったことで盛り上がったりしてね。体育祭でもただひたすら戦うというものに華やかさが加わってね。

司会　行事の話が出ましたが、他に行事で変わった点はありますか？

高島　三期生は林間学校がなかったんだよ。それまで林間で使用していた新甲子研修所が十クラスだと使えなくてね。そのかわり第三回考査のあと日帰りで日光へ遠足に行ったんだよ。十月だというのに雪が降ってね。

堀内　着いてみたら雪だったから、バスの中でお弁当を食べてね。「何しに来たんだろう」っていう感じだったわ。

河端　男女そろっての林間学校は四期が最初だったんだ。前の日に雨が降って、登山が大変だったり、登山時の女子のトイレのことなど、まだ不慣れで大変だったよね。

堀内　使える予定だったトイレが当日使用禁止になってたりね。

司会　修学旅行はどうでしたか？

高島　一・二期が中国地方で、三期から飛行機を使って沖縄を企画したんだけど、矢島校長に反対されてね。結局新幹線で九州。九州に行ったのは三期が最初。

堀内　すごい反対の仕方だったのよ。「私の目の黒いうちは、飛行機はだめです！」ってね。

高島　男女そろっての修学旅行は大変だったよね。窓から窓へヒョイと飛び移るし…。

太田　移れればいいけど、うちの学年では落ちたからね。幸いけがで済んだけど。

三国　夜景を見に行って、叱られたカップルもいたけど、そのうちいくつかは結婚しているのよね。

河端　四期の修学旅行は、矢島校長が同行してね。最初で最後だったけど。玄海灘に飛び込んだつわものもいたりして。

堀内　ホテルにジャングル風呂というのがあってね。「お湯が溜まった」って生徒が騒いでいたので、入ってみると膝ぐらいまで溜まっていてね、「これがジャングル？」って思ったんだけど、よく調べてみると排水溝に髪の毛がドッサリ詰まっていてね。

三国　内線を切り忘れた部屋があってね。その部屋の子が自宅に電話したりして、あとですごい額の請求が来たりもしたわ。

司会　当時のクラブの話をお願いします。

井原　今はなき自転車部の顧問でね。四期の太田という生徒がタイヤ引きの練習中、カーブで前のめりに飛ばされてね。頭を打って一時的に記憶喪失になっちゃったんだ。「僕どうしたんですか？」と何度も聞くから、これはまずいと思い病院に連れて行ったんだ。幸い一日たって元に戻ったけど、クビかな？って覚悟したね。

高島　女子が入ってきて、まずできた部活がバスケ・バレー・卓球・陸上・テニス（硬式・ソフト）・水泳、途中からできたのがバトン・ソフトボール・バドミントンかな。

堀内　結構たくさんクラブに入っていたから、活気がありましたよね。卓球も人数が多かったから、体育館の上でバチバチ打ってたしね。

高島　部活も女子がきたことで、男子ががんばってね。相乗効果だったよ。

堀内　あの時バレー・バスケ・剣道・卓球で一緒に合宿に行ったのよ。その旅館がひどくてね。展望露天風呂がブレハブでね。アジサイの天婦羅は出てくるし。

太田　やっぱり男女一緒の合宿は気を遣ったね。林間や修学旅行と違って大勢の教員で行っているわけではないからね。

高島　女性の先生がいたほうがいいだろうということで、合同という形をよくとってたね。

三国　（卒業アルバムを見ながら）文化部も結構盛んだったんですね。吹奏楽・囲碁将棋・化学・ドイツ語・アニメ・釣り・天文などなど。アニメ同好会の顧問が板橋先生？（一同爆笑）

司会　大変だった思い出は？

堀内　やっぱり生活指導かな。今とは逆で、スカートはロングだったから。お願いだから足を見せてという感じだったわ。くるぶしまで隠れているんだから。男子はボーイさんみたいに丈の短い学生服を着ていたり、裏地に竜の刺繍が入っていたりね。

太田　長ラン・短ラン・ボンタンとかね。

堀内　あとポシェットが流行ったのよ。かばんの他にポシェットを肩からかけてね。今考えるとおかしいんだけど。

太田　万引き防止のために、紙袋は持参禁止というのもあったよね。

高島　革かばんもお湯につけて、針金入れて薄

く薄くするのが流行ったね。

河端　（当時のノートを見ながら）学年会議で井原先生が「そういう現象面ばかり追っていても、勉強に目を向けさせない限り、問題解決にはならない！」と発言してるね。

高島　何、そんな偉そうなこと言ったの。

井原　「・・・・」（赤面）

太田　あの頃の生活指導ではかばんが一つのテーマだったよね。

三国　あとレースのソックスもありましたよ。今考えるとルーズソックスよりよっぽど上品だったけど、あの頃は大きな問題でね。

太田　冬に黒のストッキングも問題になったよね。「あれは娼婦の色だ」なんて言い出す先生がいて。

堀内　「僕は個人的にはハイソックスがかわいいと思うな」なんて個人的趣味の発言をする先生もいてね。

三国　そうそう。「黒のストッキングに白のソックスが最高だ！」なんて言ってた先生もいましたよね。

堀内　教員の間にも女子に甘くて、「いいんじゃない、女子はかわいければ」という風潮はあったわよね。

河端　頭髪など他の問題もあったから、質的には今とあまり変わりないよね。ただ違うのは今みたいに広範に及ぶわけではなく、限られたーグループで見られたという点かな。

太田　この頃は大体みんな制服をちゃんと着ていたよね。ちょうど『制服図鑑』というものが出されて沿線でも人気のあった制服だったから。

三国　獨協埼玉が「東武線の学習院」なんて呼ばれ始めたのもこの頃ですよね。

高島　女子生徒に甘いといけないと思い、学年では厳しくしていこうと話し合ったものだよね。

堀内　一番嫌だったのが、掃除のおばさんに「この学校は女子が入って乱れた」とよく言われたのが悔しくてね。

高島　あと大変だったのは進路かな。それまで男子校だったから、女子の指定校推薦など進路がまだまだ開拓されてなくてね。

司会　この頃の学校祭はどうでしたか？女子が入って何か変わったりしましたか？

高島　「蛙鳴祭」という名前がついたのはちょうど三期生の時だったね。

堀内　バトンがさっそく演技を披露したり、華やかさが加わりましたよね。

井原　キャンプファイヤーはしばらくやってたね。毎年国鉄南越谷駅まで車で枕木をもらいに行ってね。こんなもの何に使うんですか？という目で見られて・・。これがまた重くてね、帰り車のタイヤがベチャンコになりながら運んできたよ。油を含んでるからよく燃えるんだ。

司会　各期ごとに学年の担任集団はどんな雰囲気でしたか？

高島　三期の教員はみんなアカデミックでね。生徒に話せないことなんかないよ（笑）。文化祭の後なんかは、みんな春日部・越谷方面の酒屋に繰り出してね、生徒を待ち構えていたんだよ。生徒も心得たもので、つかまった生徒はいなかったけどね。

河端　四期に限ったことではないけれど、みんな若かったし、生徒とも歳が近かったから、がんばってたよね。

三国　五期では、卒業式の後担任みんなで飲みに行ってね、小栗先生が須藤先生を一生懸命口説いてたわ。あと岸本先生が本当に上品に三口くらいで一膳を平らげてね、あっという間に五～六杯食べていたのを覚えてるわ。

司会　最後に各期の同窓生に一言ずつお願いします。

堀内　女子入学の一年目で、私と澤田先生が女性教員で入って、とにかく女子が入学してダメになったと言われないようにがんばったわ。朝のHRを導入してもらったり、生活指導に追われた一年目だったりしたけど、人情を感じる子がとても多かったように思います。

高島　女子の第一期ということで、いろいろ注目されていたから、我々も生徒をしっかり把握しようとがんばったね。生徒もいろいろな先生に見守られていたからよかったんじゃないかな。そのせいか、三期生は懇親会にもよく顔を見せてくれるからありがたいよね。

河端　あの当時はかなり広範囲から生徒が集まっていて、東京の子の生活スタイルを北から来ている子が真似たりしていたのが印象に残っているね。

井原　まだ私も若かったんでね、生徒とぶつかることも多かったんだけど、今は親と子ぐらいの差になってしまったので、付き合い方も変わってきたかな。当時の生徒に同窓会などで会って、友達のように話せると、懐かしいし、嬉しいね。

太田　当時生活部主任でね。今考えるとくだらないことでもめてたなと思うんだけど、やっぱり女子を迎えたことで、こちらも何とかしなきゃという気持ちが強かったんだろうね。あと不思議なのは、ここの卒業生は卒業後も親密に長く付き合っていることが多いんだよね。それはこの学校の校風からきていることなのかなと思うね。

三国　今、新任の先生の姿を見ていると、当時がむしゃらになっていた自分の姿を思い出します。今より精神的に大人の生徒が多かったせいか、随分と助けられていたんだなと思います。是非同窓会にはたくさん来てもらって、顔を見せてもらえると嬉しいです。

司会　本日はお忙しいところありがとうございました。

●参加者

高島	宜麿先生	（三期学生主任）
堀内	和子先生	（三期三年八組担任）
河端	行雄先生	（四期学生主任）
井原	規博先生	（四期三年六組担任）
太田	朝博先生	（五期三年九組担任）
三国	美智子先生	（五期三年七組担任）
森脇	淳	（五期生、平成八年～）

●司会

Information Board

蛙鳴祭　9月23日【日】・24日【月】文化祭テーマ「dottama.com」

昨年に引き続き同窓会の部屋を2日間設けています。皆さんの集合場所として来てみてはいかがですか。懐かしい顔に会えるかもしれません。

9/23（日）は同窓生の日　同窓生のための企画満載

「懐かしの授業」今だからもう一度聴きたい、あの先生の授業

am 11：00～ 記念すべき第一回は 須藤 憲視先生、物理の授業です

先生から一言

「今回は身近な物理現象中でも、音波・光波という「波動分野」を中心に講義し、かつワクワクするような？実験を予定しています。そして波動現象を追いつつ防災についても考えてみたいと思います。数式等は最小限度にとどめますのでふるってご参加下さい。勿論冷やかし大歓迎です。」

pm 2：00～ 「第4回同窓会総会開催」 一般議題

pm 2：30～ 「同窓生による同窓生のためのセミナー＆トーク」

同窓生の講師お二人に、それぞれのご職業に関する耳よりな業界知識や、今に至るまでの人生の選択などを語っていただきます。

※ぜひご家族・お子様連れでどうぞ。

講師 ▶ 千田 仁之さん（2期、動物病院開業）「動物病院ウラ話」

講師 ▶ 水谷　功さん（3期、外資系金融機関 経済評論家）「今後の日本経済について」

pm 5：00～ 校外にて別途懇親会などを予定しております。

9/24日は同窓生による進路相談の日　同窓生に協力してもらいたい企画あり

受験生の進路についての悩みを先輩としてアドバイスしていただけませんか。現在協力していただける学生さんを募集しております。詳細については同窓会事務局・小平までお願いします。

TEL 048-977-5441　E-mail：info3@dokkyo-saitama.ed.jp

同窓生役員人事紹介（括弧内数字は卒業期）

理事一覧

会　長	玉山　栄一	(1)
副会長	永島　健次	(3)
	小平　茂	(5)
会　計	瀬戸てるみ	(8)
	大岩　幸代	(5)
監　査	森脇　淳	(5)
	髙田　晶子	(10)

幹事一覧

稲熊秀雄	(1)	坂井陽介	(11)	仲田英起	(17)
小泉英二	(2)	重富美希	(12)	金谷あゆみ	(17)
水谷　功	(3)	金久保佳代	(12)	植原浩美	(18)
吉本博之	(3)	櫻井広仁	(13)	坂本育美	(18)
桑島優紀	(3)	南谷和孝	(14)	関淳一郎	(18)
石川和美	(3)	玉越健一	(14)	内田青児	(18)
奥泉裕子	(4)	田中弓子	(15)	浜野ゆかり	(18)
酒井直樹	(7)	田ノ下紀子	(15)	岡　悦史	(19)
井上佐友子	(8)	石田　大介	(15)	大作友紀	(19)
水口将亘	(8)	永井　穂	(16)	矢作綾那	(19)
伊勢陽子	(10)	深瀬和之	(16)		

同窓会からのお願い

①同窓会運営に関するご意見がありましたら、上記の理事もしくは幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よろしくお願いします。

②総会への積極的参加をお願いします。

③同窓会で同窓会からの郵便物が届かない方がいらっしゃいましたら、同封のハガキにその方の連絡先を記入し、ご返信ください。後で同窓会会報等を郵送いたします。ご協力よろしくお願いいたします。

④住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。

※最近、同窓会を名乗り、電話で個人情報を聞き出そうとしている団体があるようです。本同窓会では、電話での問い合わせは一切しておりませんので、ご注意下さい。

会費納入のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い正式に卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費（1万円）を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願いいたします。